



【学校の教育目標】
すすんで とりくむ 古井の子



コロナになったら アマビエは何と言うかな?



～令和3年度学校評価のためのアンケートから **その3**～

■ ある学級での会話です。

前号でお知らせしましたように、2月の全校朝会では、「アマビエさまの3つの願い」という本を紹介しました。感染症に対する意識を一つ高めてくれることを願っての読み聞かせでした…

校長 渡辺英哉

!!

大切な人、自分を守るための 行動を心がけましょう。

新型コロナウイルス感染症対策で、
自分自身をウイルスから守るだけでなく、
自分が周囲に感染させないように、
一人一人の心がけが何よりも重要です。

【ある自治体のホームページから】

「古井の子」に感染症対策を通して、どんな力を付けようとするのか、ずっと考えながら行っています。その答をズバリ言い当ててくれているメッセージです。

「自分を守る」だけでなく、「大切な人を守る」。それは、「自分が周囲に感染させないように」とすること。つまり、「自分がかからない」のではなく、「自分もかかる、かかっているかもしれない」という意識をもてるかどうかなのだと思います。

そういう意識のある人が、いざかかってしまった人に対して、差別や偏見ではなく、「いつも通り」の接し方ができるのではないのでしょうか。

(「自分がかからない」という意識の人が、仮に、かかってしまった人に「大丈夫だよ」と言ったとしても、それは本当に気遣っているというよりも、相当な「上から目線」の言葉ではないかと感じてしまうのは、私だけでしょうか。)

先の1年生の会話は、こんなことにも、改めて気付かせてくれるものでした。

担任：アマビエ様は、みんなにコロナにかからないようにって絵描き歌も教えてくれたんだけど、かかっちゃったら、怒るのかな？

A子：怒らへんよ。「大丈夫？」って声をかけるんやない？

B男：「大丈夫？」なんて言わへんよ。

担任：どうして？

B男：だって、そうやって聞いたら、やっぱり気にしちゃうやん。だから、いつも通りやて。「おはよう」って。

皆：あ、そうそう。そうやよね。

■ 何気ない会話の中に

感染してしまった相手に「大丈夫？」と聞いたら、かえって「気にしちゃう」のではないかと察して、「いつも通り」にすると答える。

何と素敵な気遣い。この会話の主たちは1年生。そして、「アマビエ」は「ぼく・わたし」に置き換えることもできる会話だと思います。

「こんなに深く考えられるまでに成長したんですね。いや、もしかしたら、あまり深く考えずに軽い気持ちで言ってるんじゃないか。」

喜びも戸惑いも感じつつ、担任が報告してくれました。きっと、ご家庭でも気遣い溢れる温かい会話で満たされているのでしょう。

こんな場面での受け答えに、「模範解答」なんてないのかもしれませんが、1年生と担任とのやりとりには、なんとも「ほっこり」したのを感じます。



温かい気持ちになって、タブレットPCを開き、資料探しをしていたところ、ある自治体のホームページで、こんなメッセージを見つけました。↗

【学校評価のためのアンケート結果から】

④ 自分や友達のために、健康で安全に生活できるように気を付けている。

